

# 米国大統領選の仕組み ～ 本選挙

- 「本選挙」は各党が指名した「選挙人」に対し有権者が投票する間接選挙。各州に割り当てられた計538人の選挙人について、11月5日の一般投票で1票でも多く獲得した党が、その州の選挙人を原則総取りし、半数超の270人を獲得した候補者が実質的な勝者となる。
- 連邦議会の上下両院合同会議における投票結果の確認、当選の宣言を経て、2025年1月20日正午に新政権が発足する。

## 本選挙スケジュール

2024年

**9月16日 第1回大統領候補討論会**  
@テキサス州サンマルコス

**9月25日 副大統領候補討論会**  
@ペンシルベニア州イーストン

**10月9日 第3回大統領候補討論会@**  
ユタ州ソルトレイクシティ

**10月9日 第3回大統領候補討論会@**  
ユタ州ソルトレイクシティ

**11月5日 大統領選投票日**

Popular vote

**12月16日 選挙人投票**

Electoral vote

2025年

**1月6日 上下両院合同会議**

**1月20日正午 新政権発足**

(出所) 大統領候補討論会委員会 (CPD) などを基に作成

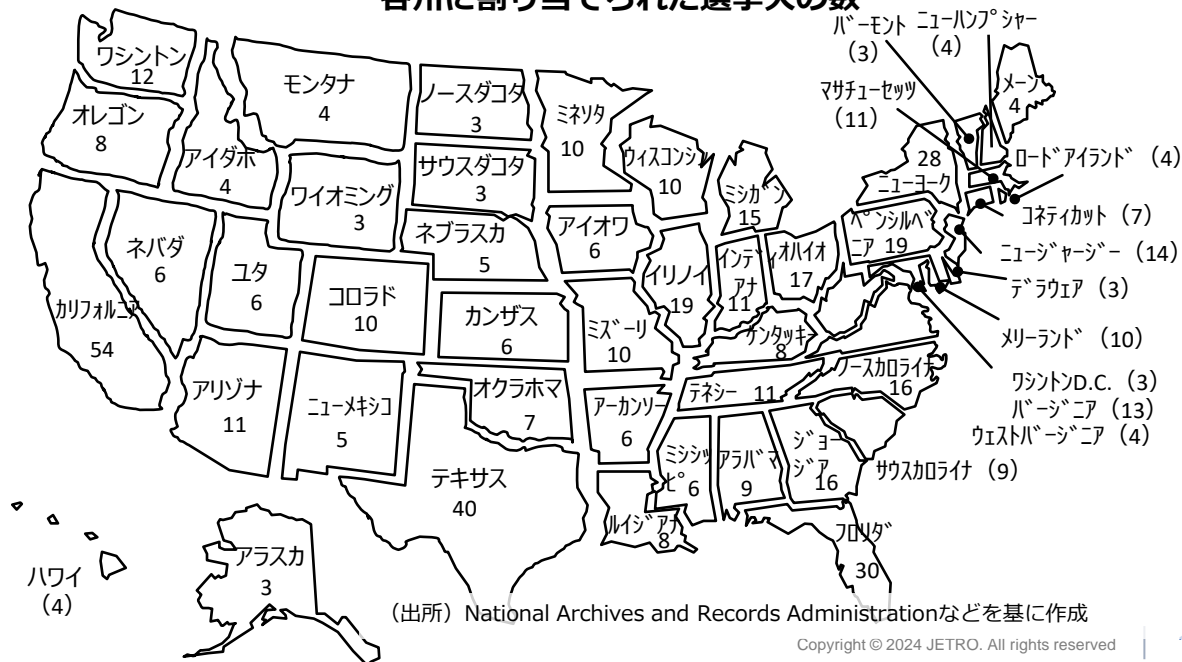
## 選挙人 Elector

各党が州ごとに指名。11月5日の有権者による一般投票数で1票でも多く獲得した党がその州の選挙人団 (Electoral College) を総取りするため (2州で例外あり)、一般投票と選挙人投票が異なる結果になり得る (例: 2016年)。

### 選挙人の割り当て

合衆国憲法に基づき、上院議員数 (各州2名) と国勢調査に基づく下院議員数に相当する選挙人が各州に配分される。2024、2028年は2020年国勢調査基準。ワシントンDCは3名が割り当てられる。

## 各州に割り当てられた選挙人の数

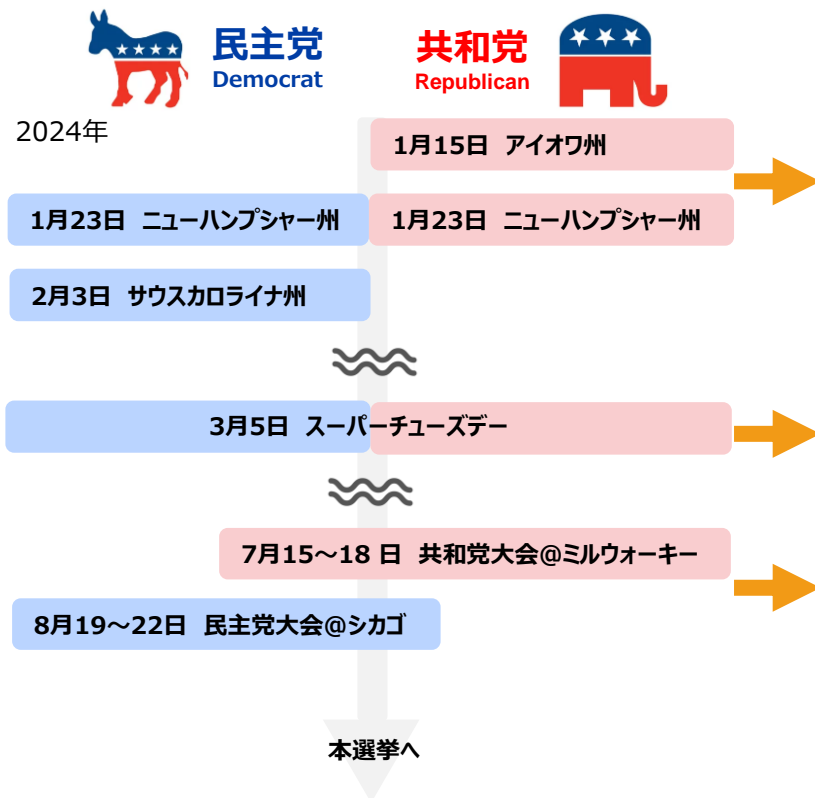


(出所) National Archives and Records Administrationなどを基に作成

# 米国大統領選の仕組み ～ 予備選挙

- 米国大統領選は大きく2段階に分かれている。まず「予備選挙」で各党から大統領・副大統領候補を選出し、「本選挙」で各党の公認候補者が競い、11月の投票によって選出される。
- 「予備選挙」は各党の候補者を支持する「代議員」に対し有権者が投票する間接選挙。代議員数は州ごとに異なり、得票に応じた配分方法も異なる。
- 「予備選挙」の実施方法は「予備選」と「党員集会」があり、選挙年の1～6月に両党が各州で実施する。

## 予備選挙スケジュール



## 予備選挙 実施方法

各党は州ごとに「予備選」か「党員集会」を実施し、得票に応じて代議員数を各候補者に配分する。党に登録した有権者にのみ参加・投票を認める閉鎖型（Closed）、非登録者にも認める開放型（Open）、折衷型（Partial）など7類型の方式で実施されている。

### 予備選 Primaries

州法および党規則に基づき、投票所で行われる無記名投票。党員集会に比べ、多くの有権者が候補者選定過程にかかわることができる。とされる。

### 党員集会 Caucuses

党が主催する集会で、話し合いや挙手により候補者を絞り込む。アイオワ州、コロラド州、ネバダ州など10州ほどが実施。

## スーパーチューズデー Super Tuesday

予備選挙は両党ともアイオワ州で初戦の火ぶたを切っていたが、2024年は民主党が順番を変更。3月5日は両党の予備選が集中して実施され「スーパーチューズデー」と呼ばれる。予備選の日程が伝統的に火曜日に置かれることが多く、他の火曜日と区別するため。予備選挙前半の勢いが趨勢に影響するため、両党候補者とも緒戦を重視する。

## 党大会 National Convention

各州・準州が、1～6月に順次予備選挙を実施して選出された代議員が党大会に集まり、党公認の大統領候補者を選出する。同候補者が副大統領候補（running mate）を正式に発表する。

### 代議員 Delegates

共和党は2,429人、民主党は4,521人の代議員が州に割り当てられており、予備選挙を通じて半数以上を獲得した候補者が党大会で正式な候補者として選出される。